

☆☆☆ 住み手と専門家のネットワーク ☆☆☆

NPO建築ネット

http://www.kenchikunet.org

No.1

特定非営利活動法人(NPO法人)
建築ネットワークセンター
〒169-0074 東京都新宿区北新宿1-30-30 柏木ハイツ12F
TEL 03-5386-0608 FAX 03-5386-1065

2002年5月
特定非営利活動法人
(NPO)として
東京都から認証!!



安心して住み続けられる 住環境をめざして発足

「住宅は福祉の根源」です。これは居住者の幸せを求める熱意と専門家の客観的、科学的な力の協力によって実現は可能です。

今年の5月に特定非営利活動法人(NPO)の認証を得て、居住者の会員を増やし専門家と協力した運営を目指しております。このため、会員を募集中です。さらにこれを契機に、広い人々に読んでもらい、役立つ、親しまれる「ニュース」を発行してまいります。

建築ネットワークセンターが「住いのかけ込み寺」を合いことばに設立して6年たちました。

この間に扱った相談は約600件にもなります。欠陥建築・欠陥住宅の相談、建築調査・診断、マンション修繕計画の立案・工事監理、建築をめぐる紛争や日照問題への技術的協力などです。最近では新聞やテレビなどで取り上げ、徐々に知られるようになってきました。

6年、600件の相談活動をバネに

住宅の取得は一生に一度の買い物であるだけでなく、そこに暮らす人の生活と将来に限りない大きな影響をあたえらるとともに、社会性が大きく公共性の高いものです。

住宅は住む人の幸福な毎日が将来にわたって保障されることが大切です。しかし、当センターへの相談をみると、「事件」となる例が次々と絶えません。

安心して住みつづけられる家、マンション、まちづくりが求められています。

最近の相談窓口から やっぱり増えてる 欠陥マンション リフォームのトラブルも多発

最近、マンションについての相談がふえてきました。コンクリートのひび割れ、鉄筋の露出、雨漏りなど、建物の寿命にかかわる欠陥がふえているのは何故なのでしょう。

一人住まいの女性が、床に現れた無数のひび割れに疑問を感じ、センター主催のシンポジウムに参加。やっぱりそうかと、自信を深めて、販売会社に引取りを要求し粘り強い交渉の結果、ついに買い戻せに成功しました。

リフォームについてのトラブルも多発しています。完成予定から半年も過ぎても終わらず、その上不具

相談窓口のご案内

建築問題で
お悩みの方は、
まずお電話または
FAXをどうぞ!



●定期相談日●

毎週月曜(祝祭除く)13時~16時
事前に御予約いただければ、内容に応じ
専門家が対応します。

※ 事務所での相談は無料。現地へ出かけて調査診断の実務などをおこなう場合は有料となります。

※ 遠方の方には、各地の友好団体を紹介します。

●電話相談●

相談日にかぎりません。お気軽にどうぞ!(無料)

TEL. 03-5386-0608
FAX. 03-5386-1065

●事務所開設時間は、午前10時から午後5時(平日のみ)

合まで見つかり、何とかしたいという相談が持ち込まれてきました。センターの技術者が改修方法を検討して、依頼者と一緒に交渉にあたっています。

住宅購入前の相談もふえてきました。事前調査や内覧会の同行依頼など、購入者にとっては賢い選択だと思います。マンションの建物無償補修期限ぎり前の点検の相談もあります。管理組合からの要請で点検を行い、業者との交渉あたるという積極的なマンションもありました。

居住マンションの目の前に高層マンション計画が持ち上がり、センターに相談。居住者・弁護士などと一緒に相談して代替案を提示したところ、それが業者にとっても有利と分かってもらえ無事解決した例があります。



住まいのトラブル 秋の連続勉強会

第1回◆9月26日(木)午後6時半より

一戸建住宅購入・ 建築時の問題点

講師 一級建築士・当センター理事長
鈴木博行さん

第2回◆10月24日(木)午後6時半より

マンション購入時のポイント

講師 生協消費者住宅センター設計顧問
一級建築士 小川満世さん

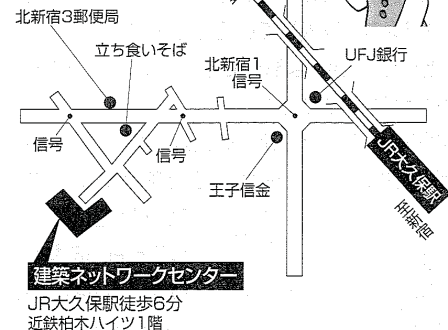
第3回◆11月21日(木)午後6時半より

リフォーム・改修工事の注意点

講師 千葉大学講師・一級建築士
山本厚生さん

会場/センター事務所
資料代/300円をご用意ください

■会場ご案内図



★お問合せ、申し込みは事務所に。
★来春も開催しますので、テーマについて御希望をお寄せ下さい。



地盤、雨漏りの原因・予防まで討議 気持ち受けとめるのが先決

毎週火曜日に、センター事務所で開かれる技術部会では、ネットワークに持ち込まれるさまざまな問題を討議しています。

欠陥問題から戸建ての購入、新築住宅の工事監理などのアドバイスまで広がっています。集合住宅やマンション問題では、大規模修繕計画の管理や住民運動のアドバイスまで求められるようになってきました。

こうした相談に応えようと、地盤から耐震、雨漏りまで、建築士をはじめ建築構造、地質工学、設備工学(空調、給排水)などの専門家が集まります。毎回、相談の一件一件をテーマに、発生の原因、対処法、予防法を明らかにしています。

メンバーが集まれば、6年間の実績があるため、建物に関わる技術問題は、解決の方向が見つかります。しかし、相談に持ち込まれる問題はそれだけでは終わらないのです。

人の気持ちも絡む複雑な経緯を経た物件もあり、なかなか思うように進まずに依頼者にも理解してもらえず、難儀していることもあります。技術者にとってにか手な部分ですが、実はセンターの一番大切な点なのです。

技術者は、良心的に仕事をしていますが、時に、技術問題だけに目を奪われて、依頼者の気持ちと

ズレが生じてしまうことも。被害を受けた人のほとんどの方は大きなダメージを受けており、そうした状況を真正面から受け止



め理解してもらおう事を望んでいます。この点に伝えられるよう心しているところです。

私は技術部会のスタートからかかわっており、多くの経験を重ねてすいぶん鍛えられてきました。(一級建築士 日比野正寿)



ティータイム



食空間に機器だけ増やせない!

最近台所はオープン型が増えている。大阪市立大学大学院教授の北浦かほる氏らの現在使用して台所調査(主婦1700人)によると対面型、カウンターなどで仕切られた半独立型が多くなり、独立型は26%。理想型を聞くと半数以上が「半独立型」を望んでおり、個室型は18%に下がっている。

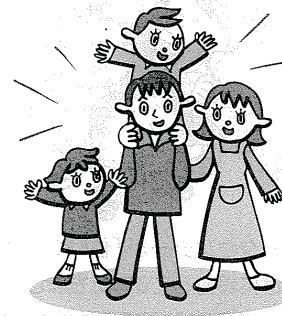
長い間、完全に仕切れ「裏方による閉じた空間」であった女の城・台所だが、女性の社会進出、外食産業の普及などで次第に炊事するよりも「家族団らんのための開かれた空間」「見せる台所」に色合いが強くなってきたとさまざまなデータで指摘している。この背後には、炊事に協力しない夫、手伝いをしない子どもたちのことも重なる。

ところが建築界は、盛んに台所から広がる空間をゆとりのある住まいとして宣伝している。この増えた

空間に、機能性をPRしたシステムキッチンや電磁調理器、食器洗い機などの売り込みも。第2次台所革命と命名してはばからない電気メーカーの声がある。

一方、この空間を狙うさらなる動きも。テーブルウエア、ガーデニング、クラフトなどアイデア提唱の関連商品の参入も活気付いている。こうした風潮の中では今、本当に必要な「もの」だけを選ぶ賢い姿勢が大切。それだけではなく、まず買う前に、見える台所で家族が炊事に関わることで主婦の負担を軽くし、みんなで家族の健康を守る家庭の食事を作る、本来の台所を取り戻したいものである。

(家庭栄養研究会・岡本昭子)



B O O K S

センター編著の本 「欠陥住宅」に 大きな反響!

読者の声

- 「欠陥住宅にてござり、もうほとんどあきらめていました。この本を見て、また勇気が湧いてきました」
- 「住宅は利潤追求だけの『商品』であってはならない。センターの理念に心から共感します。」
本を読まれてセンターに相談に来られる方も増えました。



6年間の豊富な相談活動から
事例を整理し、原因、対処法、
予防法を明らかにした本

欠陥住宅

[住まいのかけ込み寺]
建築ネットワークセンター [編著]

発行/合同出版
定価/1,600円+税

ご注文は書店または当センターまで
建築ネットワークセンター

TEL.03-5386-0608 FAX.03-5386-1065

